

エネルギー講演会 in 青森

東北エネルギー懇談会・青森県エネルギー問題懇談会連絡協議会主催の「エネルギー講演会in青森」が10月21日、青森市のホテル青森で開かれた。双日総合研究所チーフエコノミストの吉崎達彦氏が「当面の国際情勢と環境・エネルギー問題

の行方」と題して講演した。新型コロナウイルス感染症の流行を受けた国際情勢の変化や、脱炭素などエネルギー戦略について解説。各国の拙速な再生エネルギーへの転換が原油高を招いたと指摘した。講演会には市民ら約120人が参加した。



エネルギーに関する質疑応答も行われた講演会。演壇にアクリル板を設置し座席間隔を広くするなど、感染症対策を講じた上で開催された

「脱炭素」戦略 急がば回れで

双日総合研究所チーフエコノミスト 吉崎 達彦氏



＜よしざき・たつひこ 1960年富山県生まれ。一橋大社会学部卒業後、日商岩井(現双日)入社。米ブルッキングス研究所客員研究員などを経て2004年から現職。近著に「気づいたら先頭に立っていた日本経済」(新潮新書)＞

な扱いでした。その後、コロナが広がり世界経済の景色が変わった4月版は「グレートロックダウン」。都市封鎖の衝撃で経済予測も思い切り下方修正。年後半も、コロナでガタガタになった経済活動をどうやって回復させれば良いのかと途方に暮れています。

「拙速なら混乱招く」

2020年1月時点ではコロナは大きな騒ぎにならず、一時的な不安定化、おぼつかない回復」と冷静

な扱いでした。その後、コロナが広がり世界経済の景色が変わった4月版は「グレートロックダウン」。都市封鎖の衝撃で経済予測も思い切り下方修正。年後半も、コロナでガタガタになった経済活動をどうやって回復させれば良いのかと途方に暮れています。

IMF「世界経済見通し」タイトルの変遷と世界の実質GDP成長率予測

2020年	タイトル	成長率予測20年	21年
1月	Tentative Stabilization, Sluggish Recovery? (一時的な不安定化、おぼつかない回復)	3.3%	2.4%
4月	The Great Lockdown (大封鎖)	-3.0%	5.8%
6月	A Crisis Like No Other, An Uncertain Recovery (前例のない危機、不確かな回復)	-4.9%	5.4%
10月	A Long and Difficult Ascent (長く困難な登り道)	-4.4%	5.2%
2021年	タイトル	成長率予測21年	22年
1月	Policy Support and Vaccines Expected to Lift Activity (政策支援とワクチンが経済活動を活性化させる見込み)	5.5%	4.2%
4月	Managing Divergent Recoveries (広がる復興の差 回復を進める)	6.0%	4.4%
7月	Fault Lines Widen in the Global Economy (世界経済の分断線の拡大)	6.0%	4.9%
10月	Recovery During a Pandemic Health Concerns, Supply Disruptions, and Price Pressures (パンデミックの中での回復～健康懸念、供給途絶、そして価格圧力)	5.9%	4.9%

※講演資料より作成

今年に入ると、各国政府が思い切った財政支出をしたことやワクチン接種が始まったことでガラッと楽観ムードに変わりました。21年7月版の見通しのタイトルは「世界経済の分断線の拡大」。ワクチン接種が進む先進国とそれが遅れる新興国との回復の速度差はあ

るものの、世界はすでに脱コロナに向かっているという楽観的な認識です。それが10月版では「パンデミックの中の回復」健康懸念、供給途絶、そして価格圧力」で、コロナで消費が落ち込

世界にインフレ懸念

足元では、世界的なインフレが起きています。当初これは一過性の問題だと考えられていました。消費者物価指数は前年比で表すの

で、コロナで消費が落ち込んだ20年春から夏までと比べれば、今年の物価が高く見えるのは当たり前といった説明を米国の中央銀行に当たる連邦準備制度理事

「脱炭素」産業界が鍵 脱炭素で大事なのはモノづくり中心の経済を回しながら進めることです。ESG(環境・社会・企業統治)投資のような金融主体で脱炭素を迫る手法は非常に良くないと思っています。本気で脱炭素を目指すなら、産業界を動かさなければいけません。二酸化炭素を排出する鉄鋼業や化学産業を悪者にするのはなく、むしろ守るべきです。個別の企業が規制の甘い国に逃げ出すようでは日本経済にとって一大事です。日本は貿易立国であり、自動車や鉄鋼化学産業が立ち行かなくなるほどエネルギー価格が上がっては経済は低迷します。エネルギーの安定供給こそ国家の最重要戦略なのです。

原子力発電「有効な手段」 脱炭素を進める上で原子力の重要性についてどう考えるか。 吉崎氏 原子力発電については、ぜひ使わなければならない有効な手段だと思っています。国の中長期的な政策指針である「第6次エネルギー基本計画」の策定について、私は常にリプレイスメント(建替)は入れるべきだと言ってきました。岸田内閣や自民党新執行部の顔ぶれを見ますと、その辺りのことに少し理解があると感

会場の質疑応答から

原子力が必要だと考える人は「もちろん再生可能エネルギーも大事」と言うのですが、再生可能エネルギーの主力電源化を主張する人の中には「原子力は認めない」という人が結構いらっしゃって、そこは辛いと感じています。再生可能エネルギーは不安定なので、それだけに頼るわけにはいきません。化石燃料でカバーするの、あるいは、ベースロード電源をどこに求めるのか考えたときに、二酸化炭素を出さない原子力はやはり重要な電源であると思います。

